



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway
日本クリニカルパス学会

No.
26

発行日
2011年10月14日

in 大阪

2011年度クリニカルパス教育セミナー（大阪）に参加して

2011.7.9

大阪市立大学医学部附属病院 薬剤部 光川康子

2011年7月9日（土）に千里ライフサイエンスセンター5階ライフホールおよびサイエンスホールにおいてセミナーが開催されました。定員は680名で、大変盛況でした。私は中継会場で参加しました。当日の講演座長は副島秀久先生（済生会熊本病院）、山中英治先生（若草第一病院）で、5名の方の講演の概要は次の通りです。

「パス使用時の医療記録・看護記録」森崎真美先生（済生会熊本病院）の講演では、看護記録の法的規定や、構成要素を踏まえ情報の共有化の必要性について説明がありました。また、患者状態の標準アウトカム用語集がリリースされていることも知ることができました。記録として活用するための要件を学び、バリエーション分析に活用するため、データがとれる記録の重要性を改めて認識できました。「クリニカルパス電子化のポイント・落とし穴」勝尾信一先生（福井総合病院）の講演では、電子カルテの導入が各施設で進む中、電子パスの形式について代表的な NEC 仕様と富士通仕様の違いについて説明がありました。パス運用のプロセスについて導入、作成、使用、後利用に分類し解説がなされました。「オールバリエーション方式アウトカム志向型電子パスとバリエーション分析の実際」若田好史先生（九州大学病院）の講演では、パスとバリ



アンスの基本、パス分析に必要なもの、所属施設でのパスの現状、バリエーション分析例では多変量解析についても説明がありました。また、BOM（基本アウトカムマスター）使用の利点についても解説がなされました。「DPC時代で生きるクリニカルパス」田村茂行先生（関西労災病院）の講演では、所属施設の紹介、DPCの基本知識、DPCの目指すもの、DPC導入とパス改訂、DPCと疾患別原価計算ではがん薬物療法のレジメンで FOLFIRI（大腸がん）や FEC（乳がん）を例に説明がありました、また DPCと戦略的活用や、DPC時代で生きるクリニカルパスとして施設別在院日数の比較や胃切除術のパスの改良点として抗生剤の適正使用、食事の見直し、術前絶食時間の短縮などの取り組みについても説明がありました。経済性のみを重視した対応ではデフレスパイラルに陥る危険性を考慮し、経済性を重視した対応が必要であると理解で

きました。「地域連携パスを使った地域医療室の向上：胆膵癌のクリニカルパス」里井壯平先生（関西医科大学）の講演では、膵臓癌治療における地域連携パスを作成するまでの取り組みと導入に必要であった作業、導入後の実際、展開について順を追って解説があり、どのような経過で取り組みが必要であったかをイメージしながら学ぶことができました。

今回の教育セミナーでは、クリニカルパスの基本から、実際の導入における注意点など広範囲に渡る内容を学ぶことができました。クリニカルパスは治療における「標準」という枠を設けることで、その枠を超えた事例について主眼を置き、多変量解析などを利用した要因分析を通し、新たな着眼点に取り組み、育てて行く必要があると認識しました。業務を効率化する上でパス使用時の記録のあり方について、問題点の抽出とその対応を明確にする方向性は大変勉強になりました。また、電子パスは多職種間で共有化することで、エビデンスを発信できる貴重なツールになりうる仕組みであると理解しました。

● ● ● ● ●

in 東京

2011年度クリニカルパス教育セミナー（東京）に参加して

2011.7.23

青森県立中央病院 整形外科 伊藤淳二

「2011年度クリニカルパスセミナー」に参加しましたので報告させていただきます。今年は「わかる！できる！クリニカルパス ～基本と実践～」がテーマでした。今回は定員を大きく上回り、中継で受講するための別室も設けられました。

最初に近森病院の久保田聰美先生に、用語の定義からパスと看護記録に関する目的や意義について詳細に説明いただきました。分析シートを作成し定期的分析を行っておられ、定義をしっかりとしないと今後の評価・分析につないでいくことができない、ということで、オープニングにぴったりのご講演でした。

次にトヨタ記念病院の岡本泰岳先生からは電子パスについてお話しいただきました。電子化と紙のそれぞれの長所と短所についてお話しされ、多くの病院で難渋して



いる（当院でもそうですが）バリエーション分析について電子パスの長所を生かした収集についてのヒントをいただきました。非常に分かりやすくテンポもよく、途中に出てくる黒部・立山の美しい風景は会場の熱気を和らげてくれました。

電子パスの作成については徳島大学の島井健一郎先生から、ベーシックアウトカムマスター（BOM）も含めてお話しいただき、データ収集や分析がうまく行われるためにいかにマスターが重要であるか、また作成の御苦労がよくわかりました。

鳥取大学の中村廣繁先生はDPCによって多くのクリニカルインディケータを拾って分析することができ、パスへフィードバックすることにより医療の質を向上させたい、という気持ちが十分に伝わってきました。

最後に地域連携パスについて武蔵野赤十字病院の田中良典先生からお話しいただきました。がんの連携パスを大腿骨頸部骨折と同様な流れで普及させようとしていることは大きな問題（過ち）であるとのご意見は、大腿骨頸部骨折連携パスを運用してきたものとしては全く同感でした。また、医療者側と患者さんのニーズの食い違いを現場の医療者が認識しなければ結局患者さんにより結果をもたらさないことや、急性期病院でのアウトカム（転院基準）の重要性等については、以前に自分自身が学会で発表したものと重なり、非常に賛同いたしました。

今回で3回目の参加でしたが、知識を整理し今後の活動のためのヒントとエネルギーをいただき非常に有意義なセミナーでした。司会や講師の先生方、事務局の皆様感謝申し上げます。

● ● ● ● ●



リレーエッセイ 第20回
FileMaker Developer Conference 2011
in San Diego

名古屋大学医学部附属病院 メディカル IT センター長
吉田 茂

ここ数日の秋晴れの爽やかな気候に、ふと、今年8月初旬に訪れたSan Diego（サンディエゴ）の街を懐かしく思い出しました。San Diegoは、アメリカ最南西端に位置する街で、カリフォルニア州に属します。西は太平洋、南はメキシコに面し、人口122万人余を擁する全米7位、カリフォルニア州ではロサンゼルスに次ぐ第2位の街です。日本との時差は17時間（サマータイム時では16時間）です。日本が記録的な猛暑の時期に、San Diegoの街は、なんと爽やかだったことか。太平洋からの涼しい風が心地よく、日差しの暖かささえも楽しめる気候でした。

実は、昨年に続き2回目になりますが、なぜ、私がこの時期にSan Diegoを訪れたかという、この街で開催されるFileMaker Developer Conferenceというイベントに参加するためです。

FileMakerというのは、ご存じの方も多と思いますが、市販データベースソフトで、非常に扱いやすく、かつ、大規模で高度なシステム構築にも適しているため、昔から、医療関係者の間でも重宝されているソフトウェアです。そのFileMakerを使って様々なシステム開発を行っている世界中の開発者が、年に1度集まるイベントがFileMaker Developer Conferenceなのです。なぜ、開発者の集まる国際イベントに出席したかという、日本クリニカルパス学会が縁で集まったFileMaker好きの医療従事者と一緒に立ち上げた、日本ユーザーメード医療IT研究会（J-SUMMITS）の活動の一環としての参加なのです。今年は、総勢9名のJ-SUMMITSメンバーと行動を共にしました。

イベントの開催期間は正味4日間でしたが、San Diego



吉田 茂先生

に入る前に、いわゆるシリコンバレーにあるFileMaker本社、Apple本社を表敬訪問して来ました。こちらも2年連続ですが、FileMakerオタク、Mac教徒にとっては、いわば、聖地巡礼の旅とも言えます。さすがに、体調も思わしくなかったのか、ジョブズ氏には会えませんでした。FileMaker社の社



長には温かく迎えてもらいました。

お礼に、最近、J-SUMMITS有志の共著で出版した、「医療現場のデータベース活用－ファイルメーカーを用いた医療データベース構築・活用術－（ライフサイエンス出版）」を謹呈して来ました。もちろん、日本語の書籍なのですが、裏表紙にみんなでサインしてあげたのでとても喜ばれました。

カンファレンスの正規プログラムも非常に充実したもので、ここに来ないと教えてもらえない最新事情も満載なのですが、それらの事項は守秘義務に抵触するため残念ながら述べる事ができませんので、代わりに、J-SUMMITSメンバー独自の課外授業について簡単に述べます。

1時限目は歴史の授業で、サンディエゴ発祥の地、オールドタウン州立歴史公園へ行き、スパニッシュな空気とメキシカンな香りを味わうとともに、この地の暗い歴史の部分も垣間見ることが出来ました。

2時限目は生物の授業で、世界最大級のサンディエゴ動物園に行ってきました。ここには、約107エーカー（43ヘクタール）の敷地内に約800種類、4,000を超える動物が生息しています。とても1日で回り切れるところではありませんでした。

3時限目は体育の授業で、ペッコー・パーク（PETCO Park）という、MLBサンディエゴ・パドレスのホーム球場に行ってきました。運良く、対ドジャース戦で、元広島カープの黒田投手の好投を見ることが出来ました。メジャーの球場では、本当に打球の音がよく響きます。関西の某球団を筆頭とする日本プロ野球のような鳴物入りの応援スタイルがなく、あまり勝敗にもこだわらず、純粋に野球を楽しんでいる人が多いようです。

さて、課外授業ばかり述べていると遊びに行った印象を与えてしまいますので、最後に、重要なことを報告します。この度、J-SUMMITSは団体として、FileMaker Mad Dog

Public Relations Awardという賞をいただきました。授賞式は、豪華船上でのクルーズパーティで行われました。

この賞は、本社PR部門で各国からの推薦を受けて、FileMaker 開発ベンダーを対象に受賞者を選定しているもので、通常は、ベンダーが受賞するのですが、国内でも過去に受賞したのはいくつかの著名ベンダーのみです。

J-SUMMITSがこれまで行って来ました活動として、FileMaker 関連書籍の出版、インターネット等マスメディアへの記事掲載、各種イベント（カンファレンス、Appleストア、学会ランチョン等）での協力、学会発表等が本社

にて高く評価されたとのことですが、決め手は、どうやら直前にサイン入りで謹呈した例の書籍だったようです。

今回の受賞に奢ることなく、今後も、医療情報システムの一翼を担うユーザーメードシステムとしてのFileMakerの有用性を医療の世界で幅広く伝えていければ幸いです。

ちなみに、来年のFileMaker Developer Conferenceは、フロリダ州マイアミで開催されることに決まりました。参加希望の方は、ぜひ、J-SUMMITSまで！

今回は、松波総合病院 松波和寿先生です。

事務局より



▶ 第12回 日本クリニカルパス学会学術集会

会期：2011年12月9日（金）10日（土）

会場：京王プラザホテル（新宿）

会長：福井次矢（聖路加国際病院 院長）

テーマ：「これからのチーム医療」

事前参加申込期間：平成23年5月6日～11月11日

参加費：事前登録 8,000円 当日参加費 10,000円

懇親会費 5,000円

プログラム：特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、一般講演、ランチョンセミナー、パス展示 など

※学術集会の詳細に関しては、<http://www.jscp.gr.jp/meeting/index.html> をご覧ください。

▶ 学会事務局移転のお知らせ

日本クリニカルパス学会事務局は、2011年9月20日より下記の住所へ移転いたしましたのでお知らせいたします。

しばらくは皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ご容赦下さいますようお願いいたします。

何卒よろしくお願い申し上げます。

【新住所】

新住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-10-605

新TEL：03-3354-2005

新FAX：03-3354-2017



CLINICAL PATH NEWS
これからのチーム医療

第12回日本クリニカルパス学会学術集会
日時：2011年12月9日(金)、10日(土) 場所：京王プラザホテル(新宿)
会長：福井次矢(聖路加国際病院 院長)

懇親会期間：2011年6月21日(火)～8月23日(火) 学術集会IP：<http://www.jscp.gr.jp/meeting/index.html>
連絡先：福井次矢 聖路加国際病院 総務課 小川 〒104-8560 東京都中央区新富町9-1 TEL:03-5550-7054(直通) FAX:03-5550-6000